

《原 著》

左室はいつ最大拡張となるか

R 波逆方向収集心プールシンチグラフィによる検討

堀 ノ 内 治*

要旨 左室が最大拡張となる時点は拡張末期，心電図上では Q 波の始まりとされるが，完全に一致しているのか，心プールシンチグラフィを用いてその時相を検討した．壁運動異常を認めない狭心症 33 例を対象に，R 波からの順方向収集法に加え逆方向収集心プールシンチグラフィを 1 フレーム 30 msec にて施行した．全例で最大拡張となるフレームは R 波に先行し，R 波頂点より平均 105 ± 29 msec 前，P 波の始まりからは平均 88 ± 25 msec 後であった．この時相は僧帽弁が心房収縮に基づく左室への血液流入により最大に開く時点に相応し，その後の閉鎖に伴う左房側への偏位により左室容量の減少がなくとも左室壁が求心性に動くものと考えられた．以上より，左室が最大拡張となる時点は R 波に先行し，P 波の始まりより 88 ± 25 msec 後であり，従来拡張末期とされる時点とずれていることと，心房収縮に対する左室の反衝性の動きの存在が示唆された．

(核医学 39: 111-115, 2002)